

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007 News vol.2



平成19年10月26日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



「夢」のあるクルマの未来を競い合う

最先端の環境・燃費・安全・情報技術で「やさしさ」と「楽しさ」を演出

第40回東京モーターショーは、いよいよあす10月27日から千葉の幕張メッセで一般公開する。会場では、環境・燃費・安全・情報などの技術力を結集し、近く発売予定の新モデルや話題の次世代スポーツカーから、近未来の人間とクルマのかかわりを描いてみせる夢のあるコンセプトカーなどを競い合う。



トヨタの「RiN」



日産の「PIVO2」



ホンダの「CR-Z」



いすゞの「エルフ」

次世代モデルの
クリーンディーゼルエンジン

乗用車・二輪車の展示は2年ぶり、商用車・車体は3年ぶりとなる。内外の自動車メーカーが披露する未来志向のコンセプトカーは、燃費効率や環境を意識した超低燃費のエコカーに加え、新素材や事故防止技術を取り込んで、歩行者と軽く接触しても、大けがをしないように配慮した「人にやさしいクルマ」、さらに、若年層のクルマへの関心を高めようと「走りの楽しさ」を開発のテーマにしたスポーツカーなどの次世代モデルが際立つ。

地球環境保護の観点から、その期待の星でもあるエコカーは、トヨタ自動車「プリウス」の未来モデル「1/X(X分の1)」とスポーツタイプの「FT-HS」などの次世代ハイブリッド車を公開。「1/X」は車両の重量を「プリウス」の3分の1に減らし、約2倍の燃費を目指す。ホンダも車体をシリコン素材でおおった燃料電池車の「PUYO」とガソリンと電気モーターを組み合わせ環境に配慮したスポーツタイプの「CR-Z」、マツダは水素燃料でもガソリンでも走行できる「プレマシーハイドロジェンRE

ハイブリッド」を披露する。

会場では進化した電気自動車も見逃せない。三菱自動車は充電式の電気自動車に太陽電池パネルや風力発電用のファンを搭載し、エネルギー効率を高めた「アイミーブスポーツ」、富士重工業は次世代リチウム電池を搭載し一度の充電で200キロの走行が可能な5人乗り「G4e」を展示している。

ユニークな試作車ではトヨタが一人乗りの「i-REAL」と、乗れば乗るほど心身が健康になる「RiN」、日産自動車は真横への移動やロボットと対話しながら楽しく運転できる「PIVO2」、また、スズキは人にやさしいサステナブルモビリティを追求した「PIXY+SSC」を出品。ダイハツ工業は電動で格納できるガラス製の天井がついたオープンカー「OFC-1」を出品するなど、夢のあるコンセプトモデルも興味深い。

このほか、日本市場でも本格投入を目指すクリーンディーゼルエンジンの次世代モデルの技術展示なども注目だ。

あふれかえる報道陣を前に 各社トップが思い思いのパフォーマンスでお披露目

10月27日から一般公開に先立って、第40回東京モーターショーに参加する自動車メーカーおよび二輪、商用車、部品メーカーなどが24、25の両日、内外の報道関係者を対象に展示内容を公開した。会場では、プレスブリーフィングが行われ、人や環境にやさしい新コンセプトカーをはじめ、各社が取り組む経営戦略などを力強くアピールした。

プレスブリーフィングは24日午前9時30分から西ホールのフォルクスワーゲンを皮切りに、それぞれの展示ブースで相次いで行われた。今回から乗用車と商用車などを合体させた「新・総合ショー」に衣替えをしたこともあって、プレスデーには欧米やアジアなど世界の各地からも大勢の報道関係者が詰めかけた。展示ブースによっては、事前に用意した記者席ではとても収容できず、通路や隣接のブースまであふれかえる人垣で埋め尽くされるほど。このため液晶モニターの前でスピーチに耳を傾けながら熱心に取材する記者の姿も数多くみられた。



大勢の報道陣に囲まれながらパーソナルモビリティの「i-REAL」を“操縦”しながら登場したトヨタ自動車の渡辺社長

各社の持ち時間は15分間。今回のショーは「世界に、未来に、ニュースです。」がメインテーマ。文字どおり、インパクトのある話題を世界中に向けて情報発信する絶好のチャンスとなるだけに、各社のトップは思い思いのパフォーマンスで、“見どころ”をわかりやすく紹介した。

国内メーカーで最初にブリーフィングを行ったトヨタ自動車の渡辺捷昭社長は、より人間に近づけたパーソナルモビリティの「i-REAL」を自由自在に“操縦”しながらの登場。「人と地球が共生できる“サステナブル・モビリティ”の実現に向けたクルマづくり」などを強調した。ホンダの福井威夫社長も近未来の燃料電池車をイメージしたユニークな「PUYO」、日産自動車のカル



環境対策技術についてスピーチする近藤昭治・日野自動車社長

ロス・ゴーン社長はまもなく発売予定の話題のスポーツカー「GT-R」に乗って登場し、個性的なコンセプトモデルなどを大勢の報道陣の前で初公開した。

夢のあるコンセプトモデルの試作車とともに、マツダ、スズキ、ダイハツ工業、富士重工業なども年末から来年以降にかけて発売する予定の新モデルをいち早く公開、需要喚起への期待感を強く込めたスピーチが目立った。

25日には、デンソー、アイシングループなどの部品メーカー、住友ゴムなどのタイヤメーカー、さらに、商用車メーカーのいすゞ、三菱ふそう、日野などが、環境への取り組みなどを中心にブリーフィングを行った。



報道陣の関心度が高い新技術目白押しのアイシンなどの部品ブース

海外四輪メーカー勢は、アメリカ、イギリス、イタリア、スウェーデン、韓国、ドイツ、フランスの7カ国から26社が出展した。出品総台数は178台。57台の日本初出品モデルに加え、世界初出品モデルも6台が登場するなど、プレスデー初日の輸入車ブースは、おしなべて国際モーターショーらしい華やいだ雰囲気包まれていた。

フォルクスワーゲンのマルティン・ヴィンターコルン会長は、ブリーフィングの席上「グループ全体の前期の世界販売は468万台と、過去最高に達しました」と、ドイツにおいても自動車産業は依然として成長産業であることをアピールした。またBMWのシュテファン・クラウゼ取締役も、グローバルの販売計画が前倒しで達成されていることに触れながら「BMWは先端技術の開発に力を入れ、将来にわたってお客様に喜びと興奮を与えるクルマを提供し続ける」と、研究開発投資への意欲を見せた。



BMWはハイブリット車やリアルスポーツモデルを発表

例年と同様、展示内容は各国、各メーカーそれぞれのカルチャーを背景とした、バラエティに富んだもの。メルセデス・ベンツ、BMW、フェラーリなどのプレミアム・ブランドからは、富裕層をターゲットとするコンセプトカーや新モデルが多数登場。一方、フォルクスワーゲンやルノーなど、コンパクトカーを主力とするメーカーからは、スペース効率の高さ、街中でのファッション性向上など、多様な提案がなされた。ニューカマーは今年から日本で展開が開始されたアメリカのダッジ。環境技術では欧州で普及しているクリーンディーゼルに加え、量産を前提としたハイブリッドシステムの展示が目立った。



アメリカのダッジが日本に登場
革新的パッケージングを提案する
フォルクスワーゲン「SPACE UP」

個性あふれるコンセプト、デザインが続々お目見え——二輪車

二輪車は国内メーカー4社、海外メーカー5社の計9社が出展。全体的に環境技術の高度化を進めつつ、二輪車の持つさまざまな楽しさや可能性をユーザー向けに提示する動きが目立った。ヤマハ発動機の梶川隆社長は「アジアや中南米が成長市場となっているが、日本や欧州などの成熟市場でも、より付加価値の高い製品やサービスを提供することで、二輪車の需要は維持できる」と語った。スズキの津田紘社長は、「都市型の新しいモビリティをこれからお披露目します」と、パールをはがし

▶ホンダの大型クルーザー
「EV06」

新コンセプト+αスクーターを
披露するスズキの津田社長



ヤマハ発動機は高付加価値戦略を標榜



カワサキ「Ninja 250R」

て斬新なデザインのスクーターを披露した。小型から大型、実用モデルから趣味性の強いモデルまで、個性的なデザインが与えられているケースが目立つ。ワールドプレミアモデルも多く、北ホールの二輪車エリアは見どころ満載だ。

利便性高めて好評の「プレスセンター」

「世界に、未来に、ニュースです。」一開催テーマそのままに、各国メディアが連日ホットな東京モーターショー情報を発信している。その取材前線基地が、幕張メッセ国際会議場2階にある「プレスセンター」だ。

運営はブリヂストンがバックアップ。室内のワークデスク全てにLANケーブルを配線、無線LANやデジタル写真の加工もできるパソコンの設置、プレス向け主催者画像の提供など充実した情報通信設備で記者活動をサポートしているが、センター利用の記者数はショー開催の回を重ねるごとに増加する一方。そこで今回はプレスが殺到する24、25日の報道公開日にはセンターを拡張して、ワークデスク数を前回時の倍近い456席まで拡げた。

他にも日立製作所の協力を得て登録プレスのデータ管理に「ミューチップ」を採用したことで、ロッカーを大量収納が可能なクロック方式(2,880人分)に切り替えられ、センターへの入場チェックも一段とスピーディーになるなど利便性が大幅に高まり、プレス側からは、「仕事がやりやすくなった」と上々の評判だ。



大幅に拡張されたセンターのワークスペースも満杯の盛況

ーディーになるなど利便性が大幅に高まり、プレス側からは、「仕事がやりやすくなった」と上々の評判だ。

クルマ好きには欠かせない、2冊のおすすめガイド

東京モーターショーの会場内では日本自動車工業会発行の「自動車ガイドブック2007-2008年版」(オールカラー、430ページ)が販売されている。乗用車、商用車、二輪車に至る国産車の総合カタログとして従前からの定評に加え、今回版は国内外の自動車フェスティバルを約70ページにわたって特集しているのが売り。なかでも世界的に有名な英国のグッドウッド・フェスティバルと米国のモンレー・ウィークエンドが現地取材および往年の貴重な写真、データとともに詳細に紹介されており、クルマ好きにはぜひ手元に置いておきたい一冊。購入できるのは北1ゲート、北ホール南側、中央休憩ゾーン、やすらぎ・いこいのモール、サービス通路、2階中央モールの自動車ガイドブック販売所で、価格は1,200円(消費税込み)。各販売所では、日刊自動車新聞社発行のオフィシャルガイド「東京モーターショーガイド2007」(価格:消費税込み500円)も併売されていて、東京モーターショーをより堪能できる格好の手引き書となっている。



「自動車ガイドブック2007-2008年版」
「東京モーターショーガイド2007」

VIP
VIP 来場

ドイツ自動車工業会会長が来訪 日本メーカーの環境技術を高く評価

東京モーターショーには海外から自動車業界関連の要人が数多く訪れるが、まず最初の来訪者はドイツ自動車工業会のマティアス・ヴィスマン会長。VWやBMW、アウディなど自国メーカーの出品を中心に会場各ホールを熱心に見て回ったあと、主催者事務局を訪れて日本自動車工業会の名尾良泰副会長と歓談し、「日本メーカーの環境対応技術は欧州で非常に高く評価されている。情報交流を深めるなどお互いに協力していこう」などと語り、なごやかに「日・独業界団体交流」のひと時を過ごした。



名尾副会長を訪れたドイツ自動車工業会の
ヴィスマン会長

EVENT

今日のイベント (予定)

10月26日 (金)

● 4×4 アドベンチャー同乗試乗会

11:00~16:00 — 幕張海浜公園Gブロック内
(特設専用コース)

● セーフティドライブ体験試乗会

11:00~16:00 — 幕張海浜公園Gブロック内
(特設専用コース)

● クリーンエネルギー車同乗試乗会

11:00~16:00 — 幕張海浜公園D・Eブロック内
(特設専用コース)

● 商用車同乗試乗会 (東ホール東側)

11:00~16:00 — 幕張メッセ周辺公道
(幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着)

※試乗券配布場所: 幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



毎分**65枚フルカラー**出力 印刷から加工までインラインで高速処理。
※A4ヨコ 多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。

The essentials of imaging



フルカラー・オンデマンド高速印刷システム ON DEMAND PUBLISHER C65

このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL 03-5205-7820
URL <http://konicaminolta.jp/pr/odp>

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007

東京モーターショーニュースVol.2 2007年10月26日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA

10月25日のプレス入場者数 5,400人 プレス入場者数累計 14,300人